人権教育に関する特色ある実践事例

基準の観点	学校全体として人権尊重の視点に立った学校づくりが組織的かつ効果的に進められている実践事例」

１．基本情報

○都道府県名及び市町村名

埼玉県鴻巣市

○学校名

鴻巣市立鴻巣北小学校

○学校のＵＲＬ

http://www.city.kounosu.ed.jp/kokita-e/

２．学校紹介

○学級数

【通常の学級】１４学級　【特別支援学級】１学級　【合計】１５学級

○児童生徒数

【全校児童数】４５３人（平成２５年１０月１日現在）
（内訳：１年生 80 人、２年生 66 人、３年生 72 人、４年生 81 人、
５年生 78 人、６年生 76 人）

○学校の教育目標、人権教育に関する目標など

【学校教育目標】
○　強　く　（根気強く、体を鍛える子）
○　正しく　（深く考え、進んで学ぶ子）
○　美しく　（明るく思いやりのある子）
【人権教育に関する目標】
　人権意識の高揚を図り、人権についての正しい理解を深め、様々な人権問題を解決しようとする子を育てる。
○　学校の全教育活動を通し、人権尊重の意識を高め一人一人を大切にする子の育成をめざす。
○　発達の段階に即して、人権問題に関する正しい理解を深め、人権問題の解決に向けて取り組む子の育成をめざす。

○人権教育にかかる取組の全体概要

　研究主題を「夢いっぱい　笑顔いっぱい　共に生きるいちょうっ子の育成」
― 言語活動の充実と　人とのかかわりを通した人権教育の推進 ―　として研究に取り組んだ。

また、目指す児童像を「人権を尊重する豊かな心を持ち、行動できるいちょうっ子」、児童が自ら人権教育について発信する人権テーマを「学校と心をピカピカに元気なあいさつ地域の人に届けます」とした。

研究主題や目指す児童像にせまるための研究仮説を次のように設定した。

（１）　思いを伝え合い、自分や相手を認め、認められ、認め合う方法を体験的に学ばせると、児童は人権感覚が身につき、豊かな人間関係を築くことができるであろう。

（２）　友達や地域の人との交わり方やかかわり方を工夫すると、児童は共に生きることのよさが分かり、心豊かにたくましく生きることができるであろう。

３．特色ある実践事例の内容

（１）取組のねらい、目的

言語活動の充実を図りながら、人とのかかわりを通して、人権に関する知的理解と人権感覚を育ませ、それらを相互に関連させながら指導することによって、自分の人権を守り、他者の人権をも守ろうとする実践的な活動のできる児童を育成する。

（２）取組を始めたきっかけ

本校の児童の実態、今までの教育活動の成果と課題を踏まえて、次のような経緯で取組を始めた。

ア　児童の実態

○　素直で言われたことにはしっかりと取り組むことができる。
○　自ら進んで人のために行動したり、困ったりしている人にかかわったりすることが苦手である。
○　自分の考えや思いを相手に伝えることを苦手にしている児童がいる。

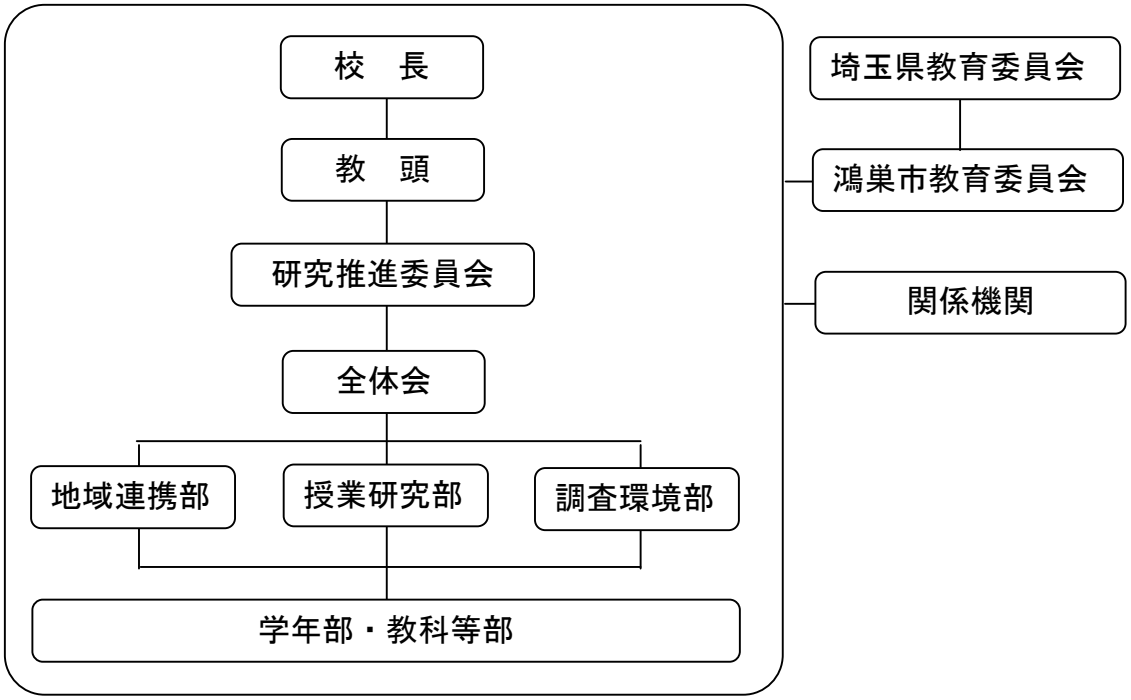
イ　国語科の研究（平成２０年以降）

○　自分の考えを深め、確かに表現できる力の育成

ウ　新たな課題

○　自尊感情の育成が必要である。
○　外国籍の児童への学習支援や人間関係づくりへの支援が必要である。
○　特別支援学級と通常学級との交流及び合同活動をすすめる必要がある。

（３）取組の主体や実施体制



（４）取組の内容

ア　授業研究部の取組

取組１　「言語活動を通じた認め合い」

○　授業の中に話し合う場面を意図的に設定し、友達とのふれあいの中で人権意識の高揚を図る。

・自分と友達がお互いに「認め、認められ、認め合う」体験をしていく中で、相手の話をうなずきながら最後までしっかり聞くことで人権感覚の育成を図る。

・自分の考えを聞いてもらえることの喜びを味わわせることで人権感覚の育成を図る。

〈言語活動を通じた認め合いの具体的な事例〉

６年社会　「世界に歩み出した日本」（生活や社会の変化）

＜ねらい＞　差別によって苦しめられていた人々の運動（全国水平社）について読み取らせ、望んでいた新しい世の中がどのようなものであるのか、自分の考えを伝え合うことができる。

＜人　数＞　２人ペア・意図的

＜交　流＞　認める：相手が資料の中から読み取った内容を知る。
認められる：自分が資料から読み取った内容を相手に伝える。
認め合う：自分と相手の読み取りについて、同じであった点違っていた点を知る。

＜評　価＞・差別撤廃を目指す運動について、正しく理解することができた。
・自他の考え方のよさや違いに気づき、相手の考えをうなずきながら共感的に聞くことができた。

＜児童のふり返り＞

・私の発表の後、「自分も同じ考えだよ」と言われて、理解してもらえたと感じることができ、うれしかったです。

・自分の考えを言って、うなずきながら聞かれるとうれしいです。ぼくもそうします。

・自分と友達の意見を比べて聞くことができました。どっちもいい意見でした。

・「差別のない世の中」「平等な世の中」について、考えを聞くことができてよかったです。

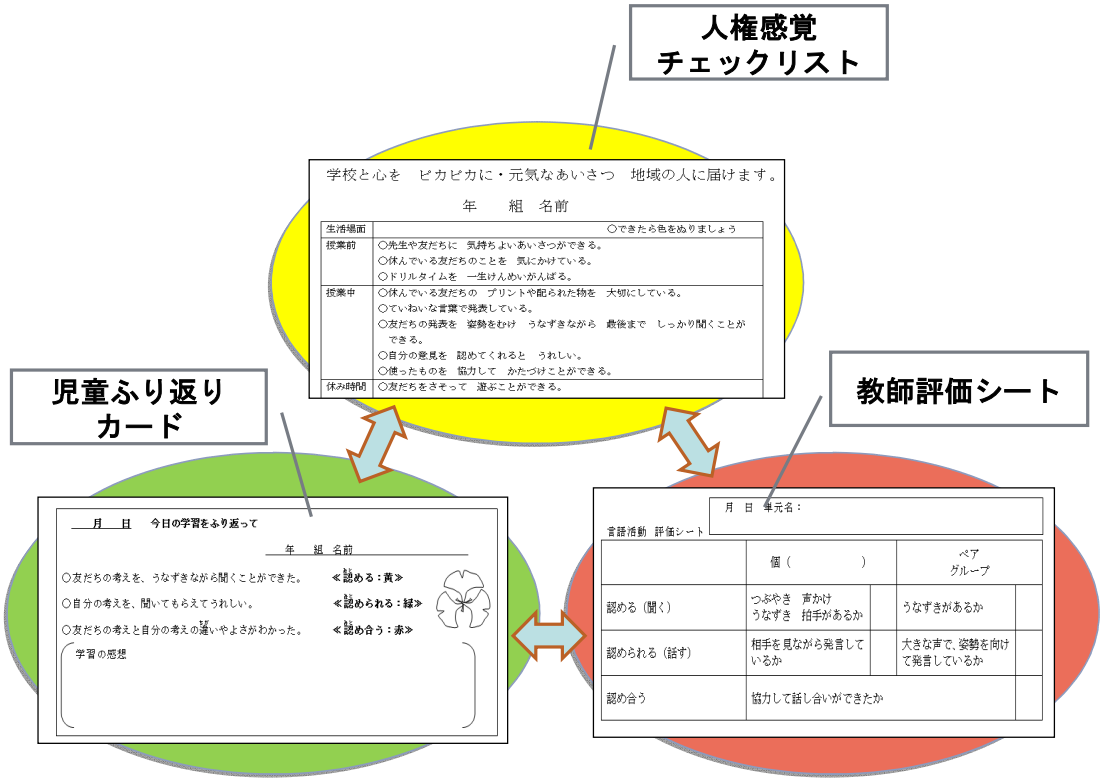
取組２　「人権感覚育成プログラムの活用」

○　埼玉県教育委員会が作成した人権感覚育成プログラムの活用を人権教育指導計画に計画的・系統的に位置づけた。

○　道徳・学級活動の授業を始め、国語や社会科の学習でも人権感覚育成プログラムを活用した。

取組３　「評価の工夫」

○　本校では、「人権感覚チェックリスト」をもとに「児童ふり返りカード」「教師評価シート」を作成し、授業における評価活動が行えるようにした。これらをもとに、児童の人権感覚に対する評価を行いその後の指導に生かしていけるように努めた。



取組４「児童自ら発信する人権教育」

○　児童会が主体となって、人権集会を開催した。「学校と心をピカピカに　元気なあいさつ地域の人に届けます」というテーマを、全校の児童に伝えることができた。

イ　調査環境部の取組

取組１　人権意識の高揚のための環境づくり

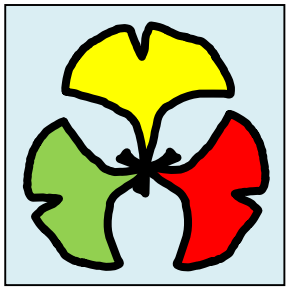
○　人権標語づくりをとおして、人権尊重の理念を理解させ、人権を尊重して行動しようとする態度を育てる。

○　鴻巣北小人権マークを作成し各教室に掲示することで、マークの意味や人とのかかわり合い方を指導した。

○　各階段の踊り場に人権コーナーを設置し、人権にかかわる行動規範について啓発した。

○　計画的にたてわり班遊びや音読の読み聞かせ等の交流活動を行い、互いにかかわり合う機会を増やした。

〈鴻巣北小人権マーク〉



（黄）認める、知る（大切にする）
：知的理解
（緑）認められる（大切にされる）
：価値や態度
（赤）認め合う
：行動に結びつける技術

〈人権コーナー〉

取組２　児童・保護者・教師の意識調査及び分析

○　平成24年７月、11月、平成25年６月の３回意識調査を実施した。

ウ　地域連携部の取組

取組１　家庭・地域への情報発信

○　毎月、学校だより等で学年ごとに地域の方とのかかわりを紹介したり、児童の様子などを掲載したりしている。

取組２　地域ボランティアマップの製作

○　このボランティアマップにより、登下校をはじめとして、地域の人たちが児童の安全を支えてくれていることを理解させることができた。

取組３　学校応援団（家庭・地域の人々）の活用

○　人権教育年間計画の中に、応援団の方々のお名前や団体名などを書き入れ、人材を活用しやすくした。

取組４　地域の方へ思いを伝える工夫

○　お世話になった方への思いを、手紙や作文で伝えたり、直接感謝の気持ちを伝えるありがとう集会で、地域の方々から学んだりした成果の発表を行った。

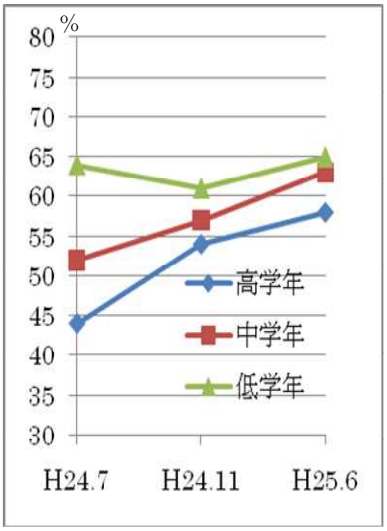
４．実践事例の実績、実施による効果

（１）取組の実績

○　文部科学省から出されている「学校としての取組の点検・評価」をもとに、平成２４年７月、１１月、平成２５年６月の３回にわたり人権教育における意識調査を実施し、それぞれの平均値を分析した。

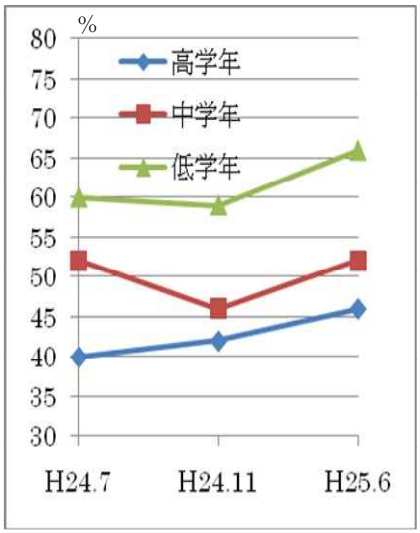
自他の大切さ

「クラスのみんなと協力し合っている」「周りに困っている人がいたら助ける」という質問で「あてはまる」と答えた児童の割合



社会的な行動

「自分の気持ちや考えを友だちや先生によく話している」「勉強などのとき、友だちや先生の話はよく聞いている」という質問で「あてはまる」と答えた児童の割合



児童は、進んで協力すること、助け合うことの大切さや他人を尊いものととらえ互いの良さを認めていこうとする態度が育ってきている。また、人との社会的なかかわり方についても向上しつつある。

（２）取組が効果を上げた実際の事例

○人権感覚チェックリストによる児童の変容

○４年生Ｃさん

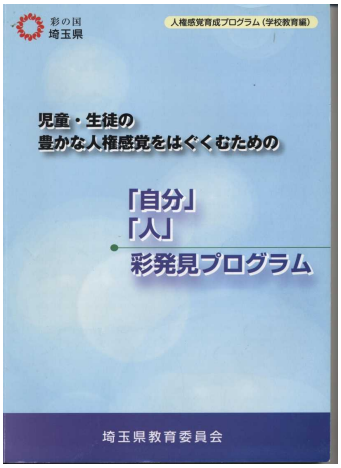
評価項目	授業前			授業中					休み時間				給食				そうじ					帰りの会			その他				
	あいさつ	友だち	ドリル	友だち	丁寧な言葉	しっかり聞く	うれしい	協力	遊ぶ	助ける	言葉	かたづけ	楽しく	はげます	協力	マナー	あいさつ	きれいに	かたづけ	時間	身じたく	楽しみ	クラスのこと	解決	ことわる	努力	話す	大切	友だち
5月	●	●	●	●	●	●	●	●				●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			●	●		●	●	●
9月	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●

授業中、自分の意見を認めてくれるとうれしいと思うようになった。自分の意見を発表できるようになったこと、更にその意見をみんなが聞いてくれたことで、友達から認めてもらっていると感じている様子がうかがえる。話し方や聞き方もとても上手な児童である。休み時間も友達と仲良く外遊びをするようになった。

（３）取組の実施から得られた知見・経験により改善を図った事項

ア　日々の授業の中に話し合う場を意図的に設定し、自分と友達がお互いに「認め、認められ、認め合う」体験をしていく中で、人権感覚の育成を図ることができた。そのためには、話合いのねらいをもつこと、ペアやグループなど適切な学習形態を設定することが必要である。また、本時の話し合いでの「認める、認められる、認め合う」内容を明確にし、話合いについての評価を行ったことが効果的であった。

イ　参加体験型の活動を組み入れた人権教育の学習プログラム「人権感覚育成プログラム」（埼玉県教育委員会発行）を活用し、児童の「自己尊重の感情」「生命尊重」「コミュニケーション能力」など、児童の人権感覚の育成のための視点を設定し、人権教育指導計画に計画的・系統的に設定し指導を実践した。従来の道徳、学級活動の授業のみならず、国語科や社会科の学習の時間にもこのプログラムを活用することで、児童の人権感覚育成に大変効果的であることが分かった。



５．実践事例についての評価

（１）取組についての評価、及びそう評価する理由

○　目指す児童像に迫るために、言語活動の充実と人とのかかわりを重視した学習活動を進めてきた結果、児童一人一人が言葉を通して、自他の思いを伝え合い、互いに「認め、認められ、認め合おう」とする意識が育まれ、互いが尊いものであるという認識が持てるようになってきている。

○　人権に関する評価方法の工夫を行うことによって、児童自ら内省させ、自尊感情や他者へのかかわり方についてふり返らせることができた。また、人権感覚を育成するための評価内容を明確にしたことで、指導と評価の一体化を図ることができた。

○　人権感覚育成プログラムを計画的に活用し、アクティビティーを行うことにより、児童は自他を大切にすることを体験し、自らあるべき姿をふり返ることができるようになったことで、実践行動に結びつけることができた。

○　今までの教育活動を人権教育の視点で見つめ直したり、教師一人一人が人

権教育の在り方を理解しそれを実践することで、本校の教育活動全体が人権教育の視点に立った指導へと改善を図ることができた。

以上のことを、平成24年７月、11月、平成25年６月の３回実施した児童・保護者・教師の意識調査等から分析した。

（２）保護者や地域住民からの反応

○　子供たちが積極的に学ぼうとする態度がすばらしく、教えていて気持ちが良かった。

○　どんどん地域の行事に参加し、たくさんの人から学んでほしい。

○　人を大切にする思いやりのある人になってほしい。

（３）現在、実施に当たって課題と感じていること

○　児童が身につけた人権感覚が人権を守るための行動力となるよう、意図的・計画的に実践する場を設定する必要がある。

○　人権に関する児童の自己評価、相互評価、教師の評価方法など児童の実態に即した評価内容の精選を図っていく。

○　今後も計画的に地域との連携を図るとともに、校種間や関係諸機関との連携を図ることで人々とふれ合う機会を増やしていく。

【人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント】

鴻巣市立鴻巣北小学校
実施体制の中心に「授業研究部」、「調査環境部」、「地域連携部」の三つの実行部門を設け、各部門がそれぞれ「ねらい」を持って取り組み、学校における人権教育の目標を達成しようとした事例である。 授業の中に話し合う場面を意図的に設定（２人のペアで話し合う）し、人権意識・人権感覚を育成するとともに、「児童ふり返りカード」「教師評価カード」による授業評価を行った授業研究部の取組、人権標語・人権マーク・人権コーナーを活用するとともに、たてわり班遊びや読み聞かせ等の児童の交流を行った調査環境部の取組、「地域ボランティアマップ」の製作、学校応援団の周知のほか、児童の手紙や作文、集会による支援者への感謝の念の表明、「学校だより」等による家庭・地域への情報発信等の地域連携部の取組は、人権教育の実施に向けた体制と取組内容の策定に関し、他の参考となる。